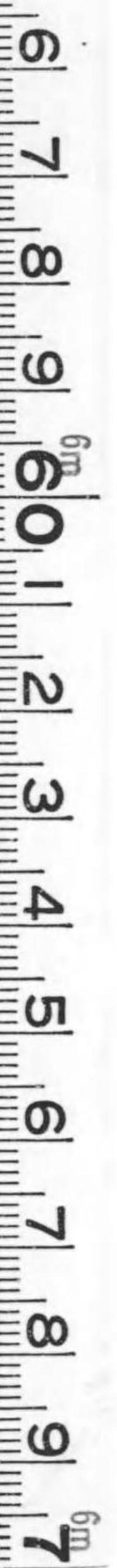


景清

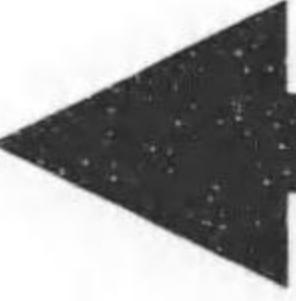
昭和改訂版
外十三

特 259

380



始



景清

(梗概) 慶七兵衛景清一下年尾張の國熱田の遊女と相馴きて人丸と言ふ子
 設け一が、女子なればとて鎌倉龜が江が谷の長に預け置きぬ。扱て平
 家没落の後景清は日向の國宮崎に流され、松門獨り閒ち籠もる佗一き
 住居を、人丸成長の後聞知りて鎌倉より蓬々尋ね下りぬ。景清は老後
 の上に盲目とさへありぬたれ巴、變り果たる己が姿のあさましきを愧
 ぢ、態と知りぬ體にて過りけるが、里人聲荒く景清々々と呼びかけ、
 遂に人丸を景清に對面せしめ、久しき親子邂逅の喜びよ、弱ぼひながら
 らも、過ぎつる八島の戦にて三保の谷の鎧を引き高名せし時の様を語
 り聞かせ、昔勇將の像を彷彿せしめ、やがて盡きぬ名殘を惜しみつゝ
 涙ながらに親子の別れとなりぬ。



シテ
惡七兵衛景清

ツ
レ
人
丸

惡七兵衛景清

ワキ里人

從者

所向日向國宮崎不定季

日向國宮陪

景傳

年月を送りぬふなる。いまさあしの
石もぐれ、あうに事も旅のゆひ又が
とんぼく、天^カの^ル思ひ旅の海^{シマ}へやまは
枕^カをそへそいと、やまとけうか
上^カお搖^カの國^カ立生^カ。諸より湯を
遠^カに窓^カまよは旅^カみの三^カは渡す

ハ鶴^カの雲^カせめがいづりあうり旅^カの夢^カ小
あまく^カつん^カ ほらぬゆ程^カふきは
ア日向^カむうき跡^カのりやにゆるよてひ^カす
詠みて宿^カ旅^カ本^カをほひぬ、あふざるほくひ^カ
ト^カそく^カは^カ宿^カ 一^カ吟^カ傳^カ 松門^カ猪^カとぞて^カ
年月^カあわくり^カとく^カのり清光^カを見^カ

中序
されば時のうつむをもわき可れへれ
まもる事、室よ後平壁り、あやまく
こへされば、さざへて、紫霞骨と、裏表へたり
月上、トリ、山、心ス、呂、未、モ、モ、
とて、せを、首くとなく、が事、よ社、ハ
樂べ、き袖乃、御、ま、やを、つま、累、るみ
様、我、よ、う、と、あ、ふ、身、を、詠、社、す

元トニテ
あさきの草を浦らかすも浦リ
ヒメ上
かぎやむし成草の葉ナリテ
浦止もべくもゆえざるに
浦めづらリ尔
ゆるる也空のあり
かりと
キバ端も
まくすとたるアヤ
御秋をぬと國よハ

はやく見
ねば風の音
はとも

ヒメ上あらぬ迷ひのなきがたを。おがくはらふ
 窓もかー、一て家にいざむが前あー。まゝ、
 ハシマラ上セオ詩とうはー、とくに、
 まみがじき、ひのひがまえをめぬゆへ抱とひふ
 てそもなりなるくづ、流され人のじまや知
 てある、源氏物語も名す

たが誰かやひそ、平家れは無む事事
 景清じゅる、一て方様のへをば離れてても
 せせ、あより育児あせがてる事あー。は
 もばまー、おほよく揃ひ、そぞろよし衣を
 はりあり、あのそり事をば察訥するく清
 舟ひ、つま

少ひ於も多まへまをひて、後弱るのみあざる
事、てふ思はれ只この事を以て成
若そとひて少くは旨圖あるものすれ
て、少くは我一年在法の間熱因少く甚
事よお別、ほ子をまかく、女よなれ、
用小立ちべき事無ひ、浦多が多めにうり安

中吟
比翁よ頑事^{アサシ}了^{タメ}づ^ル剥^{ハス}ぬ^ル朝^モすを^ル
迷^{ハシ}一^{ハシ}二^{ハシ}三^{ハシ}四^{ハシ}五^{ハシ}六^{ハシ}七^{ハシ}八^{ハシ}九^{ハシ}十^{ハシ}
月上^{ムツノヒ}未^ミ辰^{ミツ}午^{ミツ}未^{ミツ}申^{ミツ}酉^{ミツ}戌^{ミツ}亥^{ミツ}子^{ミツ}丑^{ミツ}寅^{ミツ}
未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}未^{ミツ}
道^{シテ}ふ^ル中^ノ源^シの^ルあづ^マき^ル通^ス

わき
黒人と風ひ
ゆき
涙すれど人の弱音や
ゆき
涙すれど人の弱音や

あわへられそひ わき あらはまくよとす
ても、名をばれ成人をほひそ
つき 平家の侍急七をほ景清とす わき
今は、あ出山よ、暮れゆんびさり
きるの、けんば其うをす、育目ある
も食のひひつる、一をす、首目あると、

食アソ^上おるひ、氣はよや、荒ふぎや、
黒清の事をすて、あまみは、庄ひ
は方の、ひろが、清愁傍せ、毛色、そ
紗ひそひ、是、ひりとやたる事にそひそ
は、不、かたふくひ、今、の何をうつみや
あき、おまな、景清の、匂、女ふそひが、

宿す方あわせにねまを一おつゝ。日向北の海常と
名わはまきひいのちを、旅人マトをたのみ
我おどきめぬるのあいきくわめて、マト
を、マトはあがむづマト、マトよ引マトくへる店を、マト
ひやされく、マトはなむか、ゆけマトくらむと
持てまやまゆは、マト今、マト東は供す、マト景清と

呼べー、吾名あるがすまふべー^{マサニシ}時
達袖に毛づくれ^{マツスズクレ}、首^{シテ}はれ店物^{ミヤモノ}
座すへ渡り^{マサヒタリ}、いのちのわら豆乃肉^{マダラノ}
糸満の渡り^{マジマツ}、恩^{ウカ}せ名^{マニ}は糸満^{マジマツ}
がモー^マ、され^{マシテ}にがのの若生^{マサニシ}
て^マ、^マお^マが^マあれ^マ、^マを^マ名^{マニ}の
らも^マう^マも^マき^マ千羽^{マチハ}の^マ船^{マツル}渡^{マタフ}、^マ袖^{マツマツ}を
くぐ^マる事^マき^マは^マも^マ中^マの^マあ^マー^マ
え^マあり^マと^マか^マて^マ今^{マサニシ}は^マせ^マふ^マか^マと^マ
と^マひ^マき^マた^マる^マと^マ食^{マシ}を^マ恩^{ウカ}せ名^{マニ}は^マあ^マ
ん^マど^マな^マば^マざ^マこ^マく^マう^マと^マふ^マじ^マせ^マう^マ其^マの^マ上^マ家^マ
名^{マニ}は^マ國^{マツル}の^マ日^{マニ}と^マ月^{マツル}ふむ^マく^マ

向ひ見るをとがめをく力なく捨
て、元ニト、元ニニト、一セント
一樟うらぶるふ色るれのうれ、惡ひ茶
アキドとらへせ又、彼立や、而は候あぐら
ヤアは於持あるか、に候まきや、拘
な、バ、徳よめく、也、木を以みかよ似
アマーラ、元ニト、一セント、
アマーラ、カ、ある、おれくせとて、彼あ
ヤア

一くよくなましひ事、まじゆる、一ね
ア、まきヤア、月社く、けヨモヤア、も、人
セ、れ、も、ア、一言のうちよある、物を、山松
風す、や、よ、ぬ花の、ある、うみを、一
はよ、お、浦、お、壁、疊よ、よ、する、波、も、た
ゆる、アタ、潮も、さ、ほ、や、ん、ほ、ま、ぐ、小我、も
ヤア

平家もあり物語を下めては廢ふをす
せんと嘆くがちと心よ強る事れひて
わき船を賣をやてひて向ふ免めふするにてひ
わき第やはもの事よりてひて嘆くがちと
又がおよりがあよ景清を尋たる人
なくひういやほろよりかおらひる

者もあくわきあくばよれ事を佔ひや
上ひく唐島女と絶ひて浦島に程ふ
いひへくな是と云供すてひあく
父はよは對面へヒメ上ふ、
是とありてひへうらめしやまほみ乃そ
すぐ雨風をあわせるのであります

たるあらわがへも浅よなる怨かへや
徳が敵の血氣とも子によりきるか情
あやしておなじみのくじと思ひては
詮きけるうやめのう乃言所もやを内
しや自身も花れぬと、敵子と名ふ
言ふふなば殊よ我名も居るべと

黒ひ切つあるはよおれどもあよ
日衣おせよぢへはうとだんをもとへり
一とて想ふそし歎其被ひよけた子
ふぞに毛筋はきどりあはす一はよ
上門の御れうやかよ肩をあらべ纏
をみて、防狭くすも用のまふ清を達

よりも浦宿マサニあみてうなふまト
一木を以ト武略マサニタシヨタシケキビ
名をとり輝の御のをま従マサニあう
一元ニニニニニニニニニニニニニニニ
ノハモウヤアれたりノオの難マサニ
難も老ぬまが駕馬にあらざりあり
わき下マサニ、
いに景清マサニは急女マサニはおまのひ
志もぬよし言ふ語マサニテサキシベマサニば物
詮マサニ通ひマサニかかへマサニてくありマサニ

わき
中この事、まわ語るゝが、おとへ送り
屬あらべ、せやにく黒一のをひく
して、其は、ある事、二月、八旬の事
なり、に、平家を源氏に達すはを
あきよ強そばに筋面をゆねる事を
御も、能かて宗教經言が極志年攝

磨の室山舎内れ水をひよどりまぢ
かうると一度もさかのああつて事、
三元一ツ、三一、
徳よ義経り計ほし、さじよつて也
いづかして九郎をほん謙じとせあら
はふつけまくらむ、巴景萬人おもか根
上判をもればとて思ふても、のらば、金

を捨てやうのまことにひ教誨よ
勧め歌をもんよめれば源氏の兵万
すほり坐ておけむくふ 星上ヒルタニ
成るヤア やあとヤア やと夕日ハタの義メシ
歩ぬひらゆみのいそかきぶ地ハタケへもトドて
まもいする舞ヒラフ四方ヨリへまつとトふせに

敵をもづけ、二三度迎のびられせゆふ敵
ヤアハヤラハトリニミテ
あ半ばのぎきじと元りきすゆめをおり
ヤアハヤラハトリニミテ
とまゐりやと引種よ鞠はきれてああ
ヤアハヤラハトリニミテ
にひくまきをかたへぬのびぬ達
ハナヒトニカニ元ニシテ
ひく立クリ去ふくもゆ
ハナヒトニカニ元ニシテ
うでのほよむといひこれ
ヤアハヤラハトリニミテ

が類のほぬとそつておそれとゆひて左右
へのまにりうす首わきをぬ物がたりおどり
きて心えみよきけるぞやまづりやば
せうどとも紫の鶴ぞ命せつらさまよひ
、元、う、二、一、一、一、二、三、一、一、ト、一
あや立ゆりちゆき詠も第ひゑすへ育
こじ、刻、二、二、二、ト、一、一、二、元、一
月の、ヤラハ

383
3
546

十六
橋と頼む處へはよどぬるがりそとの
花火の火 小一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、
煙一筋をもとめほんと是ぞう歌ふれり
まほく

昭和十三年八月廿五日印刷
昭和十三年八月三十日發行

定價金五拾錢

著作権有



著作者 寶生 新

東京市下谷區上野櫻木町四十八番地

發行兼印刷者

江島伊兵衛

發行所 下掛寶生流譲本刊行會

終

